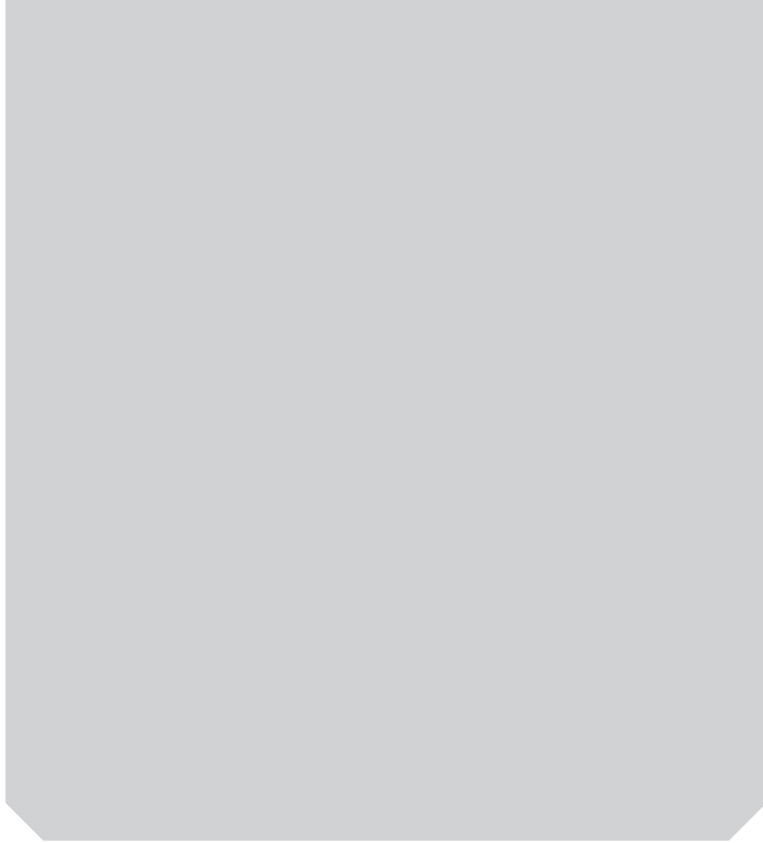
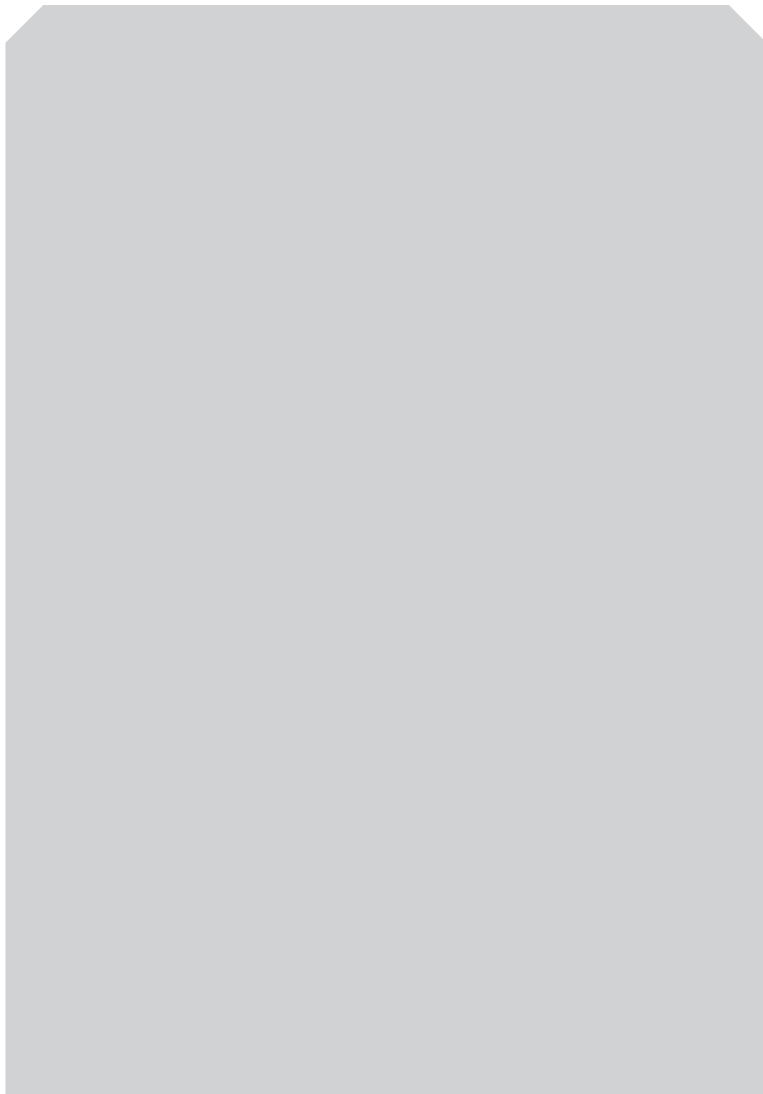




資料



小児がん拠点病院における小児がんの児童生徒の教育環境等に関する調査

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 病弱教育研究班

I. 調査の目的

本調査は、小児がん拠点病院における小児がんの児童生徒への教育の現状と課題について把握することを目的としています。この調査結果を踏まえて、「小児がんの子供の教育に関するガイドライン（仮）」の策定を目指しています。

II. 調査対象

小児がん拠点病院内の特別支援学校（病弱）及び病弱・身体虚弱特別支援学級設置小・中学校

（以下、「小児がん拠点病院内の学校・学級」という。）

III. 本調査の回答者

小児がん拠点病院内の学校・学級の担当教員を想定しております。

具体的な回答者の選定につきましては、学校長に依頼いたします。

IV. 調査結果の集計と分析方法及び公表等情報の管理について

本調査の結果を資料として用いる研究の成果は、学会や本研究所の報告書、Webサイト等で公表する予定です。その際、回答者個人が特定される形での公表は一切行いません。なお、個々の学校を特定される形での分析・公表を行いませんが、グッド・プラクティスとしてコラムなどで紹介する場合には、個々の学校との協議による合意を得た場合に行います。なお、回収した調査結果は厳重に保管し、研究目的以外で使用することは一切ありません。

V. 同意の有無について

本用紙の回答をもって同意を頂いたものとさせていただきます。

VI. アンケート調査の質問項目

本調査では、次の1～7についてうかがいます。

1. 組織、在籍数、施設	5. 退院後のフォローアップ
2. 学籍、前籍校との連携	6. 高校生への対応
3. 教育課程、指導上の配慮、支援	7. 教員の専門性、教員へのサポート
4. 医療との連携	

VII. 回答方法（全ての質問に回答いただく時間はおよそ 60 分です。）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
在籍児童数 【小学生】									
(内、小児がん の児童数)	()	()	()	()	()	()	()	()	()
在籍生徒数 【中学生】									
(内、小児がん の生徒数)	()	()	()	()	()	()	()	()	()
在籍生徒数 【高校生】									
(内、小児がん の生徒数)	()	()	()	()	()	()	()	()	()

※あくまで小児がん拠点病院内の学校・学級に在籍している児童生徒とする。

(5) 小児がん拠点病院内の教室数についてお答えください。所属先が小学校特別支援学級の方は①へ、中学校特別支援学級の方は②へ、特別支援学校の方は③へお進みください。

①小学校特別支援学級

- ・使用できる教室数は ()
- ・上記の教室は特別教室を【 ☐含む ☐含まない 】

②中学校特別支援学級

- ・使用できる教室数は ()
- ・上記の教室は特別教室を【 ☐含む ☐含まない 】

③特別支援学校

- ・使用できる教室数は ()
- 【内訳：小学部 ()、中学部 ()、高等部 ()、その他特別教室等 ()】

(6) 小児がん拠点病院内の教室における I C T (情報通信技術) 環境についてお答えください。

①教室で使用可能なデスクトップパソコン又はノートパソコンの有無

- ☐ある ☐ない

②(①で「ある」と回答した方のみ) デスクトップパソコン又はノートパソコンの授業での利用状況

- ☐利用している ☐ほとんど利用していない

③教室で使用可能なタブレット型情報端末（例：iPad）の有無

☐ある ☐ない

④（③で「ある」と回答した方のみ）タブレット型情報端末の授業での利用状況

☐利用している ☐ほとんど利用していない

⑤インターネット環境の有無

☐教室内でインターネットを利用できる【 ☐有線 LAN ☐無線 LAN 】

☐教室内でインターネットを利用できない

⑥テレビ会議システムの活用状況

☐テレビ会議システムを利用できる状況にあり、実際に授業等で活用している

☐テレビ会議システムを利用できる状況にあるが、授業等でほとんど活用していない

☐テレビ会議システムを利用する方法はわかるが、必要な環境整備が進んでいない

☐テレビ会議システムを利用する方法等がわからない

⑦教室にあるその他のICT機器（例：電子黒板）

（７）小児がん拠点病院内の教室とナースステーションとの物理的な距離についてお答えください。

☐どちらかと言えば 近い と感じる

☐どちらかと言えば 遠い と感じる

可能な範囲で具体的に補足をお願いします。（同じフロアあるかどうかなど）

2. 学籍、前籍校との連携

（１）小児がん拠点病院内の学校・学級に関する保護者への案内についてお答えください。

①保護者への案内の担当者

☐主に【☐医師 ☐看護師 ☐病院の事務職 ☐その他 】が担当している

☐特に決まっていない（と思われる）

②保護者への案内のタイミング

☐入院前日までに案内 ☐入院当日に案内 ☐入院２日目以降に案内

☐わからない

（２）児童生徒の学籍の移動に係る事務手続きについてお答えください。

☐多くの時間を要するため、事務手続きの簡素化が必要である

☐どちらとも言えない

☐事務手続きの簡素化が十分なされている

(3) 副次的な籍（副籍、支援籍など）の有無についてお答えください。

- ☐ある【 ☐活用されている ☐あまり活用されていない 】
☐ない

(4) 入院後に学籍を移動しない児童生徒についてお答えください。

①小児がんの児童生徒の状況

- ☐学籍を移動しない児童生徒は少ない（と感じる）
☐学籍を移動しない児童生徒が多い（と感じる）
☐わからない

②小児がんの児童生徒が学籍を移動しない主な理由（複数選択可）

- ☐入院が短期間であるため
☐在籍校が他の都道府県の学校であるため
☐理由はわからない
☐その他

③小児がん以外の疾病の児童生徒の状況

- ☐学籍を移動しない児童生徒は少ない（と感じる）
☐学籍を移動しない児童生徒が多い（と感じる）
☐わからない

④小児がん以外の疾病の児童生徒が学籍を移動しない主な理由（複数選択可）

- ☐入院が短期間であるため
☐在籍校が他の都道府県の学校であるため
☐理由はわからない
☐その他

(5) 入院後に学籍を移動しない児童生徒への対応についてお答えください。

- ☐対応していない
☐対応している

（具体的な対応方法）

(6) ベッドサイドにおける指導についてお答えください（複数選択可）。

①小児がん拠点病院内の学校・学級に在籍している児童生徒の場合

- ☐計画的に授業を実施している
☐計画的に授業を実施できていないが、空き時間や放課後などに指導している
☐ほとんど対応できていない

②小児がん拠点病院内の学校・学級に学籍を移動していない児童生徒の場合

- ☐計画的に指導している
☐計画的に指導できていないが、空き時間や放課後などに指導している
☐ほとんど対応できていない

(7) 外来通院の児童生徒への対応についてお答えください。

☐ 対応していない ☐ 対応している

(具体的な対応方法)

(8) 前籍校との連携についてお答えください。

①小児がん拠点病院内の学校・学級への転籍時（入院前～入院時）

(連携の具体例)

②小児がん拠点病院内の学校・学級に在籍している間（入院中）

(連携の具体例)

③前籍校への復学時（退院後）

(連携の具体例)

3. 教育課程、指導上の配慮、支援

(1) 現在、小児がん拠点病院内の学校・学級で実施している教育課程についてお答えください（複数選択可）。

☐ ①小・中学校の各教科の各学年の目標・内容等に準じて編成・実施する教育課程

☐ ②小・中学校の各教科の各学年の目標及び内容を当該学年（学部）よりも下学年（下学部）のものに替えて編成・実施する教育課程

☐ ③小・中学校の各教科又は各教科の目標及び内容に関する事項の一部を特別支援学校（知的障害）の各教科又は各教科の目標及び内容の一部によって、替えて編成・実施する教育課程

☐ ④各教科、道徳もしくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科もしくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として編成・実施する教育課程

☐ ⑤家庭、施設又は病院等を訪問して教育する場合の教育課程

(2) キャリア教育についてお答えください。

☐ 教育課程における位置付けが明確である

☐ 教育課程における位置付けが明確ではない

(3) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画についてお答えください。

①個別の教育支援計画の作成

☐ 入院期間に関わらず作成している

☐ 入院期間によって作成するかどうかを判断している

【入院期間（ ）ヶ月以上で作成】

☐ 入院期間以外の要素で作成するかどうかを判断している

☐ 特に作成していない

②個別の指導計画の作成

☐入院期間に関わらず作成している

☐入院期間によって作成するかどうかを判断している

【入院期間（ ）ヶ月以上で作成】

☐入院期間以外の要素で作成するかどうかを判断している

☐特に作成していない

（４）授業時間数についてお答えください。

☐十分確保できている ☐確保が難しい

（５）自立活動の時間における指導についてお答えください。なお、「実施している」場合には、小児がんの児童生徒への指導内容の例もお書きください。

☐実施していない

☐実施している

（小児がんの児童生徒への指導内容の例）

（６）小児がんの児童生徒に対する教育活動全体における指導・支援についてお答えください。

①自己管理支援（生活管理、体調管理など）の工夫

（具体例）

②心理面のケアの工夫

（具体例）

③ターミナル期の児童生徒への指導・支援の工夫

（具体例）

（７）小児がんの児童生徒に対する各教科における指導上の配慮についてお答えください。

①指導内容の精選

（具体例）

②体験的な活動における指導方法の工夫

（具体例）

③ＩＣＴ（コンピュータ等）の活用

（具体例）

④負担過重とならないための工夫

(具体例)

⑤その他

(具体例)

4. 医療との連携

(1) 児童生徒に関する医療スタッフとの情報交換についてお答えください。

- ☐ 随時行っている
- ☐ 定期的に行っている
- ☐ 行っていない
- ☐ その他

(2) 児童生徒への治療や看護の計画に関する情報共有についてお答えください。

- ☐ 医療スタッフと教員間で情報が共有できている
- ☐ 医療スタッフと教員間で情報が共有できていない
- ☐ その他

(3) 児童生徒の個別の教育支援計画に関する情報共有についてお答えください。

- ☐ 医療スタッフと教員間で情報が共有できている
- ☐ 医療スタッフと教員間で情報が共有できていない
- ☐ その他

5. 退院後のフォローアップ

(1) 退院後すぐに前籍校へ登校することが難しい児童生徒へのフォローアップについてお答えください。

- ☐ 十分な対応ができていない
- ☐ 積極的に対応している

(具体的な対応方法)

(2) 入退院を繰り返す児童生徒への退院後のフォローアップについてお答えください。

- ☐ 十分な対応ができていない
- ☐ 積極的に対応している

(具体的な対応方法)

6. 高校生への対応

(1) 小児がん拠点病院に入院中の高校生への対応の現状についてお答えください。
なお、高等部のある特別支援学校（病弱）の方は回答する必要はありません。

☐ 対応していない

☐ 対応している（例：放課後の学習支援）

（具体的な対応方法）

(2) 小児がん拠点病院に入院中の高校生への対応の課題についてお答えください。

☐ 特に課題はない

☐ 課題がある

（具体的な内容）

7. 教員の専門性、教員へのサポート

(1) 小児がん拠点病院内の学校・学級担当教員に必要な専門性についてお答えください。

（具体的な内容）

(2) 平成26年4月～12月の間に参加した病弱教育に関する研修会（校内研修は除く）についてお答えください。

☐ 3回以上参加した

☐ 1～2回参加した

☐ 1回も参加できなかった

(3) 小児がん拠点病院内の学校・学級担当教員をサポートする体制についてお答えください。

☐ 教員をサポートする体制が特にない

☐ 教員をサポートする体制がある（例：グリーフケア）

（具体的な内容）

●回答者氏名（ ） ●職名（ 教諭 ・ 講師 ・ 非常勤講師 ）

●所有免許状（ 小学校教諭免許状 ・ 中学校教諭免許状 ・ 高等学校教諭免許状 ・ 特別支援学校教諭免許状※）

※養護学校教諭免許状含む。

●教職経験（ 年）

特別支援学校（病弱）及び病弱・身体虚弱特別支援学級経験（ 年）

小児がん拠点病院内の学校・学級経験（ 年）

ご協力ありがとうございました。